

スクールソーシャルワークの必要性

平 野 潔¹

はじめに

青森家庭少年問題研究会は、毎年、「家庭」「少年」に関する学習会を開催している²。これらの問題は地域の課題でもあることから、ここ数年、地域未来創生センターに共催をお願いしている。今年度は2回の学習会を開催したが、その1回目の学習会が、「スクールソーシャルワークの必要性」であった。

スクールソーシャルワーカーとは

スクールソーシャルワーカー（以下、「SSWer」と表記する）とは、生徒指導上の課題に対応するべく、教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働き掛けて支援を行う専門職である。しかし、SSWerが実際にどのような活動をして、その活動にはどのような課題があるのかは、あまり知られていない。そこで、本学習会が企画された。

学習会の概要

2023年度第1回学習会「スクールソーシャルワークの必要性」は、2023年7月29日（土）に、弘前大学人文社会科学部校舎4階の多目的ホールで開催された。

まず、青森家庭少年問題研究会共同代表で、青森明の星短期大学子ども福祉未来学科長の最上和幸氏より、「制度導入の背景と概要」と題して、SSWerとは、どのような人であるか、どのような経緯で導入されたのか、どのような関わり方をするのかについて説明をしていただいた。その上で、SSWerを巡るいくつかの課題が示唆された。

続いて、中南教育事務所SSWerの渡辺春華氏にご登壇いただき、「スクールソーシャルワークの活用・実践」として、現在のSSWerの配置状況、具体的な活動内容について説明していただいた。また、実際に渡辺氏が関わった事例を紹介しながら、SSWerがどのように関わっているのかについてもお話を伺うことができた。

その後の質疑応答・意見交換では、現場の教員も含めて活発な議論が行われた。

おわりに

当日は、学校関係者を含めて24名の方に来場していただくことができた。学校における問題は、様々な問題が複合的に絡み合う構造になっており、今後SSWerの必要性は高まるように思われる。学校の問題にどのようなアプローチが可能かも、引き続き考えていきたい。

¹ 弘前大学人文社会科学部。

² 青森家庭少年問題研究会については、HP（<https://www.saibanhou.com/aomorishonen.html>）を参照（最終閲覧日：2024年1月9日）。

青森家庭少年問題研究会 2023年度 第1回学習会

スクールソーシャルワークの 必要性

子どもがよりよく学べる環境の実現に向け、本
学習会ではスクールソーシャルワークの視点や
制度、実際を紹介しつつその必要性を考えます。

14:30~15:00	「制度導入の背景と概要」 講師：最上 和幸 氏 (青森家庭少年問題研究会共同代表、 青森明の星短期大学子ども福祉未来学科長)
15:00~15:30	「SSW活動の実際と問題点」 講師：渡辺 春華 氏 (中南教育事務所スクールソーシャルワーカー)
15:30~16:00	質疑応答・意見交換

日 時	2023年7月29日(土)14:30~16:00
会 場	弘前大学人文社会科学部校舎4階多目的ホール
主 催	青森家庭少年問題研究会
共 催	弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

参加無料・
事前申し込み不要・
どなたでも参加できます

お問い合わせ

弘前大学人文社会科学部 平野
Tel : 0172-39-3199
E-mail : k-hirano@hirosaki-u.ac.jp

V-1

スクールソーシャルワークの必要性